

Point

J R 東海 大阪修繕車両所分会分会情報

No. 110 2011. 05. 15.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

浜岡原発は止まるが！？

東日本大震災から2ヶ月が経ちましたが、福島原発事故は、依然として一進一退、厳しい状態が続いているようで、連日ニュースにならない日はありません。

この福島原発事故によって、政府も原子力政策の見直しを迫られようとしているのが現状です。

そのような中、5月6日に菅総理が中部電力浜岡原発の全面停止を要請し、9日には中部電力が停止することを発表しました。

浜岡原発が、東海地震の推定震源域内(右の図参照)にあり、しかも断層の真上に建設されていること、東海地震の発生確率が今後30年以内に87%と推定されていること、津波対策が不十分なことなどから全面停止要請となったようで、2~3年後に津波対策が整えられると再稼働ということも考えられていますので、これまで浜岡原発の危険性を指摘してきたJR東海労として今回の全面停止は歓迎しますが、まだまだ安心することは出来ません。何故なら、福島原発事故が示すように、原発は「止める、冷やす、閉じ込める」の全てが出来なければ今回のような大惨事となり、停止=安全とはならないからです。

そして浜岡原発だけが危険なのではなく、他の原発も老朽化や活断層などの問題を抱えており、地震国日本として危険なことに変わりありません。

原発は、将来にツケ(核のゴミ)を残す！

原発は、仮に全面停止したとしても「核のゴミ」と言われる使用済み核燃料などの高レベル放射性廃棄物の問題があります。

5月9日、毎日新聞(朝刊)の1面に『日米が核処分場 極秘計画/モンゴルに建設』の大見出しで、米国と日本が共同して世界初の国際的な使用済み核燃料などの貯蔵・処分施設をモンゴルに建設する計画を進めていることが報道されました。

この報道が示すように、世界各国で発電用原発が稼働していますが、高レベル放射性廃棄物を最終的に処分する方法が確立されておらず、高レベル放射性廃棄物は増え続けています。勿論、日本も同様で危険な高レベル放射性廃棄物は増え続けています。日本でも高レベル放射性廃棄物の処分法として地層処分が研究されていますが、まだ確立されていませんし、地層処分の処分地に手を挙げる自治体もありません。

福島原発4号機は、定期検査のため運転停止中だったにもかかわらず使用済み核燃料プールの冷却問題で大惨事に至ったことが、高レベル放射性廃棄=使用済み核燃料の危険性を示しています。

このまま原発を稼働し続けると増え続ける高レベル放射性廃棄物によって日本は滅びるかもしれません。

明日の日本のためにも原発問題を考え、行動しよう！！

